

優秀賞

理解から尊重へ～共に生きるための鍵～

新潟大学教育学部附属新潟中学校 3年

高橋 侑珠子

「世界の人々が共に生きる」とは、どういう事だろうか。あいまいな考えしか持っていなかった私にとって、深く考えさせられる出来事があった。

今年の夏休み、私は軽井沢にあるインターナショナルスクールのサマースクールに参加した。世界各地から約 80 名の中学生が集まった。最初はかなり緊張したが、英語でコミュニケーションを取る事によって打ち解ける事ができた。ところが生活に慣れ、数日過ぎた頃から小さなトラブルが起きてきた。国籍や宗教、文化の影響による考え方の違いからくるものだ。

ある日の授業で、性別について話し合う機会があった。ボスニアから来た友達は、自分の国では LGBT の人達に対する対応がひどいと説明した。それに対してアメリカから来た友達は、ボスニアの友達は国の代表であるかのような物言いで批判した。また、ランチの時間、アフリカから来たイスラム教を信仰している友達に、タイから来た友人が「おいしいから食べてみて」と豚肉を勧めてしまい、アフリカの友達を怒らせた。このような小さな行き違いがあちこちで現れた。せっかく仲良くなれたというのに、それが足元から崩れていきそうで不安だった。自分にできる事はないのか考えをめぐらせていた時、ある考えに至った。それは、「相手も自分もリスペクト（尊重）する。」という事だ。私の中でアンダースタンド（理解する）では、その先の発展性がないように思えた。相手をリスペクトするという事は、相手を理解した上で関わりを作ることである。自分をリスペクトするという事は、自分の考えを大切に、丁寧に扱うことを意味する。このようにする事で互いに対する理解が深まり、トラブルも減るのではと考えた。

1 日の終わりに仲間と自分が学んだ事や考えた事を話し、共有する時間があった。その中で私はこの考えを述べた。何でアンダースタンドではだめなのか、という質問もあった。私は先に述べた事を想いをこめて説明した。皆真剣に聞いてくれて、最後には全員が納得してくれた。中には、「いい話し合いができて良かった。ありがとう。」と感謝の言葉をかけてくれる友達もいた。皆とわかりあえたと思える瞬間だった。

また、今回のサマースクールを通じ、世界の様々な人と関わっていく中で、一人一人違いがあるのは当たり前で、むしろ必要なものだ気づかされた。その違いがあることで、多様な物の捉え方が生まれ、それらを上手に組み合わせしていく事で、世界中の人々が納得できる世の中を作りあげていけると思う。

理解と敬意を持って世界中の若者と手を携え、新しい社会を切り拓いていく事こそが、次世代を担う私達の使命である。そのためにも、今後世界に飛びだし、人間力をさらにスキルアップさせ

たい。